

優良農家の紹介

大規模稲作農家が多品目栽培で複合経営にチャレンジ

はじめに

神崎郡市川町で豆類と野菜導入による複合経営に取り組んでいる大規模稲作農家、橋本義明氏の経営概要を紹介する。

橋本氏は1975年に結婚、1981年にJAを退職後、夫婦で大規模稲作農家への道を歩んできた。

橋本氏の農業経営

労働力 本人、妻、長女（1997年就農）、長男（2008年就農）、長男の妻、常時雇用1名、臨時雇用延べ592名

経営面積 自作地109a、借地2,600a

経営作目 稲1,940a 大豆500a、野菜150a、小豆56a

1 水稲は省力栽培が中心、販売先に応じて栽培方法を選択

移植作業は側条施肥、除草剤・箱剤処理ができる田植機を使用し、5月上旬から6月末にかけて、早生、中生、晩生の品種を各6ha移植する。防除は乗用管理機を使用する等、機械利用による省力栽培を行う。2004年からは一部の水田で、有機質資材の施用や水田除草機の使用等による無農薬無化学肥料栽培にも取り組み、玄米は通常より高値で販売している。

育苗土は農場から多量に出る籾殻を粉碎機で細かく砕き、堆積・



籾殻を発酵し育苗土に利用

発酵したものを使用し、育苗土の軽量化にもつなげている。

2 野菜は17種類を生産し多様な販売を実施

ネギ、キャベツ、ブロッコリー、枝豆等、17種類

の野菜を栽培し、学校給食と直売所、販売業者へ販売している。主力は2002年度から取り組む集荷調整業者との契約葉ネギ栽培である。8月に播種・育苗し9月に定植、冬季に出荷し、手間のかかる出荷調製は自動洗浄機を製作し、作業を効率化している。



ネギの洗浄・皮むき作業

3 作業受託は育苗と乾燥・調製・袋詰めが主体

水稲育苗作業（約10,000枚）と11台の乾燥機による乾燥・調製・袋詰め作業（約20ha）が中心で、個人農家以外に3つの営農組合からも受託している。

4 地域農業のリーダーとして

2007年には、神崎郡の大規模稲作農家で作る「神崎郡稲作経営研究会」の会長に就任するとともに、同年、町内の認定農業者等と地産地消グループ「もっちょり市」を立ち上げた。

また、近隣の幼稚園児を招待し、無農薬水田での生き物探しやさつまいもの植付け・掘取り体験を提供したり、要請に応じてポン菓子機を持ち込み、イベントを盛り上げる等、地域との交流にも積極的である。

5 今後の課題

米価の低迷が続き、経営上、稲作に魅力を感じなくなっている。今後は家族一人ひとりの能力・意欲をさらに生かしながら、野菜や豆類の生産をさらに拡大するとともに、加工等新規部門の導入を検討している。

前家 正起（姫路農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：079-281-9338）

ひょうごの農林水産技術 No.166

平成21年11月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400